

タスクシフトの好事例—私たちはこうやっています—

睡眠医療

菊地 歩

一般財団法人 太田綜合病院附属太田西ノ内病院

当院では2001年に総合睡眠医療センターが開設され、運用の中心的役割は臨床検査技師が担っている。我々は、当初より終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG）をはじめ、検査以外の業務にも積極的に参画してきた。具体的には診察の問い合わせ対応から予約管理、治療後のサポートなど検査技師が一貫して実践している。また、睡眠専門施設やPSGを実施できる施設が少ないことで初診や検査の予約待ちの延長が著しいため、以下の業務の運用についても開始した。①地域医療連携施設と共同したPSG予約待ち短縮のための診療体制②検査技師によるPSG結果説明③遠隔モニタリングシステムを活用した患者指導など、様々な工夫をしながら積極的に業務拡大を推進してきた。また、連携施設共同による診療支援は専門外医師の知識向上にも寄与し、さらに患者の満足度向上や治療継続にも繋がっている。睡眠医療は、検査に携わる我々の知識を活かしながら治療にまで関わるができる魅力ある仕事である。

病理業務

遠藤 浩之

済生会新潟病院

近年、病理診断科においてもタスクシフト／シェアの推進が求められている。当院における病理組織診と病理細胞診の現場において実践しているタスクシフト／シェアについて紹介していきたい。

病理組織診では、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的ポリープ切除術（Polypectomy）検体は0.2%メチレンブルーで染色し、実体顕微鏡にてピットパターンを判定して臨床検査技師が切出しをおこなっている。特殊染色と免疫組織化学は、染色の判定結果を記入用紙に記載して病理医へ報告しており、乳癌・胃癌・大腸癌のHER2FISHカウント結果も同様の報告形式にて実施している。

病理細胞診では、穿刺吸引や乳頭分泌液、乳頭部擦過などにおいては外来やエコー室、病棟に向向いてベッドサイドでの標本作製を施行している。また、超音波内視鏡下穿刺吸引（EUS-FNA）や超音波気管支鏡ガイド下針生検（EBUS-TBNA）では迅速細胞診（ROSE）を実施しており、実施現場での報告方法、細胞診専門医チェック後の迅速判定、永久判定の報告方法について紹介する。

肝炎コーディネーター

小堺 利恵

東北医科薬科大学病院

肝炎医療コーディネーターは、肝炎対策の一環として各都道府県に設置されている制度であり、医師の業務を他職種が担う「タスクシフト・シェア」とは制度的に異なる枠組みである。

しかし、臨床検査技師が患者支援や医療連携に関与する実践は、結果として医師の負担軽減や医療の質向上に寄与しており、タスクシェアの一形態と捉えることも可能である。

当院では2017年より、消化器内科と検査部が連携し、肝炎ウイルス陽性者の拾い上げと治療導入支援に取り組んできた。具体的には、HCV抗体陽性者を抽出し、過去の受診歴や治療歴を確認した上で、主治医に対して報告書を発行し、消化器内科への受診を勧奨する体制を構築した。この報告書を契機に、HCV-RNA検査やDAA治療が導入され、SVR（持続的ウイルス陰性化）を達成した症例も複数確認されている。

本発表では、当院での取り組みの経緯、具体的な連携フロー、成果と課題について事例を交えて報告し、臨床検査技師が果たすべき役割の可能性について考察したい。

心臓カテーテル検査

中川 一馬

医療法人 立川メディカルセンター 立川総合病院

2021年臨床検査技師等に関する法律が一部改正され、現在タスク・シフト／シェア業務として実施されている。それに伴い検査可能業務の増加や拡張、業務の明確化が行われてきている。

2024年4月より医師の働き方改革として、医師の労働時間の上限規定が適応され医師の業務負担の軽減への推進が始まり1年が経過した。現在当院におけるアンギオ検査室での業務内容として、PCIやEVT、CAS等の冠動脈及び末梢血管再建術等や、TAVIやMitraClip等のSHD（Structural Heart Disease）の治療への参加。EPS/AblationやPM/ICD等の不整脈分野での治療に携わっている。アンギオ検査室における検査及び治療業務内容、多職種との業務分担、現在携わっているEPS/Ablationの不整脈分野での業務内容などを報告・紹介し、今後まだまだ変化していきそうなタスク・シフト／シェア業務について、皆様と少し考えていければと思います。



がんゲノム医療コーディネーター

竹内 美華

地方独立行政法人宮城県立病院機構 宮城県立がんセンター

がん遺伝子パネル検査（以下CGP）はがんに関連する数十から100以上の遺伝子を網羅的に解析し、最適な治療法を導く検査である。同時に国が設置する「がんゲノム情報管理センター（以下C-CAT）」に治療・ゲノム情報など多岐にわたる情報を登録しビッグデータを構築する側面があり、煩雑な事務作業をこなす現実がある。当院では厚労省指定の講習を受けた「がんゲノム医療コーディネーター（以下CGMC）」が、医師に代わり患者への検査前説明、C-CATへの情報入力を担当している。CGMCは臨床検査技師、薬剤師、看護師の計13名が各々の専門性を活かしながら互いに連携し、円滑な運用と医師の負担軽減に貢献している。

当院ではCGMCがこれらの業務を医師の代行として行うことに対し、一定の評価は得られているが、今後は新たに保険収載された造血器腫瘍遺伝子パネル検査や、保険診療外での遺伝学的検査など、さらなる支援体制の強化が課題となっている。